

第1回めいほう協議会議事録

日時：令和6年5月30日(木) 14:00～15:35

場所：大教室

出席者：めいほう協議会委員8名、校長、副校長、各グループリーダー

○会長挨拶

港南台連合理事会会長を務めており、今年で3年目になる。委員の皆さまに貴重な意見を頂きたい。

○校長挨拶

- ・横浜明朋高校の特徴は多部制の昼間定時制高校で、午前部・午後部が設置されている。原則1～4時間目が午前部、3～6時間目が午後部の授業である。ただし部間併修の仕組みを用いて、3年で卒業が可能である。様々な困難を抱えている生徒も多い。そのため学校だけで解決できない問題も多く、地域の力を借りる必要もある。その好機がめいほう協議会である。ぜひ様々な意見をいただきたい。

○委員・教員自己紹介

○学校教育計画について（校長）

- ・資料の通り、今年度から4年間の計画となっている。これまでと大きく変えているところはないが、詳細はグループリーダーから説明をする。
- ・今年度は1年生が11期生となり、新たな10年間となる。今年度は1・2年次が午後部のクラスが減ってしまったが、手厚い指導ができる利点がある。
- ・加配も非常に多くなっている。また本校は在県外国人等特別募集枠が3年前から設けられ、外国籍・外国につながる生徒が、全校生徒の15%に達している。あーすぷらざとの連携や学校設定科目・日本語などで対応している。彼らの進路実現のため、日本語能力検定試験の取得支援などを行っているが、今後も支援体制を考えていく必要がある。
- ・教育相談体制については、SC・SSWが来校し、対応している。またスクールメンター、スクールキャリアカウンセラーもおり、外部人材を有効に活用しているが、コーディネートする教員の負担などに課題がある。

○令和6年度学校評価報告書について各グループより説明

1. 教育課程・学習指導について

- ・「わかった・できた・つながった」をどう実現するかが開校以来の目標である。勉強が苦手な生徒へは手厚く指導しているが、学習に意欲的に取り組んでいる生徒をさらにどう伸ばしていくかという点は課題である。また他者との協働活動に苦手意識がある生徒が多いが、他者との協働を通じて、生徒の自己肯定感を伸ばせるような教育活動をしていきたい。
- ・ICT機器の利活用には教員側の課題もあるが、積極的に活用を通じ教育目標の実現をしていきたい。

2. 生徒指導・支援について

- ・生徒支援の柱は「生徒指導」「保健指導・健康管理」「教育相談」であり究極的には「主体的な人間を育てる」ことが目標である。
- ・「生徒指導」の面では人間関係のトラブルが多く見受けられる。生徒が抱える課題については外部人材も活用しながら生徒の成長を促したい。また今後は成功事例の共有などでコーディネート力を磨いていきたい。
- ・「生徒指導」と「生徒支援」の両立を図るとともに、必要な場合は地域と協力しながら、規範意識などを確立したい。

3. 活動支援について

- ・「生徒会」「部活動」「学校行事」「ボランティア」を中心に担当している。「部活動」については加入率30%が目標だが、現状27%であり、引き続き入部を促していききたい。
- ・「ボランティア」は小学校との交流、スポーツフェスティバル参加などが行えており、コロナ下で途絶えていた外部との交流機会が増えつつある。
- ・昨年度の教育活動の中で、本校生徒の自己肯定感の低さを痛感している。諸活動で生徒の強みをつくりキャリア形成につなげていきたい。

4. 進路指導・支援について

- ・引き続き「社会生活実践力の育成」を図っていききたい。自分がどう社会とつながるのか、総合的な探究の時間などのプログラムを通じて自分を認め、自分の力を発揮できるような教育活動を行っている。
- ・進学・就職はあくまでスタート地点である。しかし進学・就職をしても、力をうまく発揮できない卒業生の話も耳にする。教育プログラムが、自分事として消化できるよう分析し、今年度の卒業予定者の指導につなげていく。

5. 地域等との協働

- ・コロナでいったん途絶えた地域との関係を取り戻すのがポイントである。昨年度も協議会で委員の紹介から駅前清掃にも参加できた。
- ・本校では生徒会・生徒会スタッフなどは参加できているが、生徒全体に活動を広げたり参加できる機会を増やしたい。
- ・外部機関の連携としてはあーすぷらざと連携し、外国に繋がりのある生徒むけのガイダンスを実施している。引き続き支援をしていきたい。昨年度は学習支援員の予算もつき秋から支援は実施できたが、人材発掘などに難しさも感じており地域に相談したい。

6. 学校管理・学校運営

- ・今年度はグラウンド工事が6月に予定されており、生徒に負担をかけないよう対策を検討中である。狭い教室で運動が行われることも想定され、熱中症対策もしていきたい。
- ・昨年度、全教室にモニターを配備したが、その後電子黒板配備が決まった。既存設備の有効活用を図っていきたい。
- ・防災については、地域の方と連携した活動を、夏休みから秋頃に実施できるか検討中である。

○委員からの意見・質疑応答

- ・あーすぶらざは母体からして海外でのボランティア経験がある職員がおり、経験を伝えられる。またインターンで生徒の受付や夏祭りのお手伝い、館内レストランでの社会体験などをすることができる。
- ・小学校に高校生が来ると児童が喜ぶ。外国につながるのがある生徒をいかして国際理解教室など多文化共生の視点でも小学校と交流できるのではないか。
- ・横浜明朋高校の生徒は障がい者をどう理解しているのか。障がいのある人を理解した生徒を育ててほしい。
- ・部活動については、定時制・通信制の全国大会と全日制の全国大会の違いをどう考えているのか？
→生徒たちも違いは理解している。定時制は全国大会に出やすく、成功体験が積みやすい。表彰などを通じて、目標達成が味わえる。
- ・課題を抱える生徒が多い中、部活動加入率が30%に近いのは努力の成果ではないか。特に中学校に横浜明朋高校は何を求めているか知りたい。
→他校種の教育実践は非常に参考になるため、特に教員と授業実践の交流を図っていききたい。また中学生にも学校見学をしてもらいたい。
- ・「わかった・できた・つながった」の「つながった」は授業面だけなのか。
→広義では地域とのつながりも入る。幅広く捉えられる概念である。
- ・こんなに教育に多くの方が関わっていることがわかった。お願いとして、高校は保護者からすると、物理的に遠く普段の生徒の様子が小中学校とくらべて見えづらい。ボランティアなどで保護者が学校に関わる機会を増やしたほうが、保護者からの安心も得られると感じた。

○会長より閉会挨拶

- ・地域では様々なつながり・集まりがある。これらの機会を活かして何か横浜明朋高校の役に立ちたいと考えている。例えば去年は特別支援学校のふれあいデーでボッチャ大会を行った。何か役に立てればと日々考えている。

○次回開催日程の確認 10月16日(水) 13:20～